

飛騨高山における公共交通機関利用観光客の意識実態

福井工業大学大学院 学生員 ○吉田 貴利
 いであ株式会社 正会員 片柳 澄明
 福井工業大学 正会員 和田 章仁

1. はじめに

日本の伝統的、歴史的な町並みがある都市には、多くの観光客が国内外から訪れる。そこで、高山市を対象として、公共交通機関で来訪している観光客に着目して、公共交通機関の利用実態を把握することとした。

本研究では、高山市内に公共交通機関で来訪する観光客を対象にアンケート調査を実施した。これによって、公共交通機関を利用する理由、公共交通機関で来訪した観光客の高山での行動等の公共交通機関を利用した観光客の実態を把握する。これにより、観光客の意識の分析、さらには今後の観光交通手段の在り方の検討につながると考える。

2. 調査概要

調査は、岐阜県高山市のJR高山駅前広場及び隣接する高速バスターミナルにおいて、平成20年9月26日(金)、27日(土)、28日(日)の3日間行った。調査方法としては、公共交通機関(JR及び高速バス)で来訪している観光客を対象にアンケート調査票を配布し、回収は郵送とした。400票配布して233票回収し、そのうち有効回収票数は231票(有効回収率:57.75%)であった。

アンケートの内容は、個人属性、旅行形態、及び公共交通手段を選択した理由などである。

3. 調査結果

(1) 被験者の年齢別構成

観光客の交通機関別、年齢別に示したものが表-1である。10代、20代、40代、50代の観光客はJRを利用する割合が高い。反対に30代、70歳以上の観光客は高速バスを利用する割合が高くなっている。なお60代の観光客は、JR及び高速バスを利用する

割合がほぼ同率である。

(2) 被験者の居住地

観光客の居住地別を示したものが表-2であり、その中でも、観光客が多い居住地におけるJRと高速バスとの比較を行ったものが図-1である。地域間でみると、東海・北陸よりも関東・甲信越のJR利用の割合が高くなっている。

表-1 交通機関別の年齢別構成

	JR	高速バス
10代	6(3.7%)	1(1.5%)
20代	21(12.8%)	6(9.1%)
30代	14(8.5%)	11(16.7%)
40代	18(11.0%)	3(4.5%)
50代	57(34.8%)	19(28.8%)
60代	33(20.1%)	15(22.7%)
70歳以上	15(9.1%)	11(16.7%)
計	164(100%)	66(100%)

(注) 不明を除いて集計

表-2 被験者の居住地

北海道・東北	関東・甲信越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄	岐阜県内	合計
9	77	71	50	4	5	14	230
3.9%	33.5%	30.9%	21.7%	1.7%	2.2%	6.1%	100%

(注) 不明を除いて集計

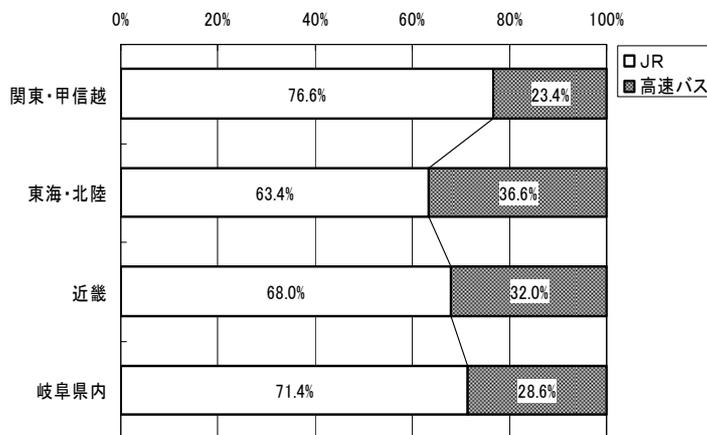


図-1 居住地別からみた利用交通機関

キーワード 観光, 公共交通機関

連絡先 〒910-8505 福井市学園3丁目6-1 福井工業大学建設工学科和田研究室内 TEL: 0776-29-2585

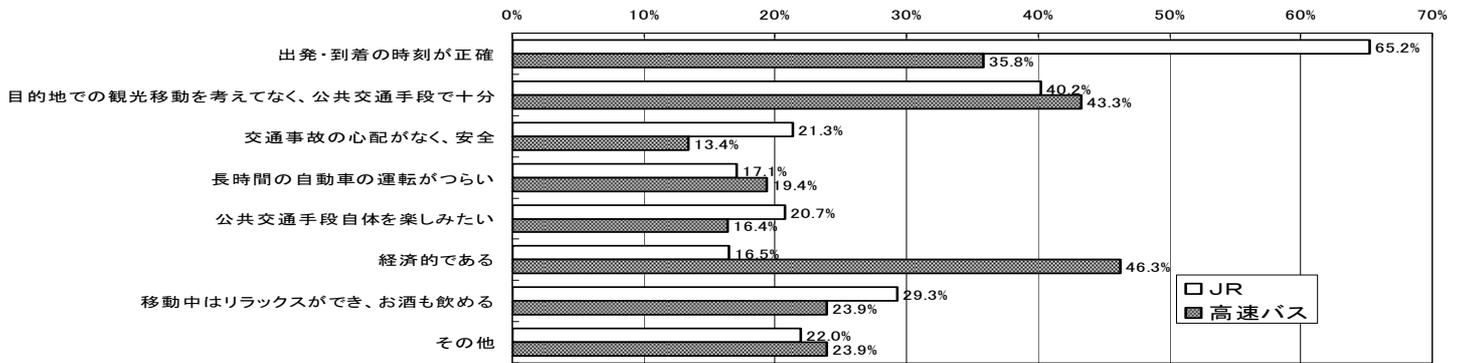


図-2 JRと高速バスの選択理由比較

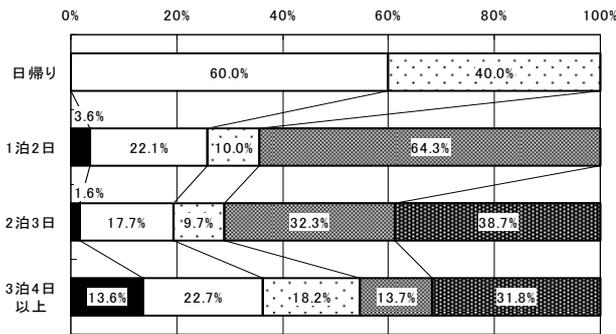


図-3 全日程からみた高山の滞在時間

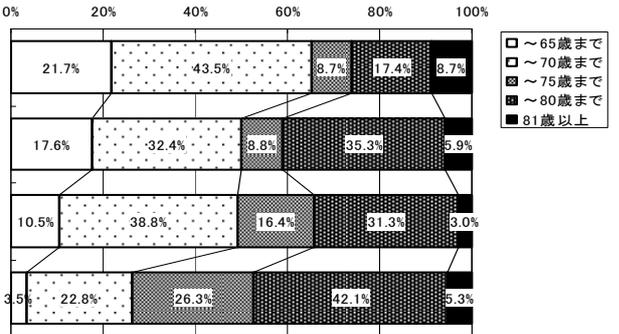


図-4 年齢階層別にみた観光旅行をしたい年齢

(3) 交通機関選択の理由

交通機関選択の理由を示したものが図-2である。JRを選択した理由としては『出発・到着の時刻が正確』の割合が高く、反対に高速バスは『経済的である』の割合が高い。これは、JRと高速バスのお互いの長所を選択していると考えられる。その他にJRで回答率が高かった項目として『移動中はリラックスができ、お酒が飲める』がある。これは、飲酒運転の規制が厳しくなったものであると考えられる。一方、高速バスで回答率が高かった項目として『長時間の自動車の運転がづらい』がある。これは、50代、60代の旅行者が多いことが原因であると考えられる。

(4) 高山における滞在時間

今回の観光旅行の全日程のうち高山の滞在時間を示したものが図-3である。全日程が1泊2日と2泊3日の観光客は、高山で宿泊している割合が6~7割を占めている。この理由としては、前出の図-2の『観光移動がなく、公共交通手段で十分』から高山を目的として来ている観光客の割合が高いと考えられる。全日程が3泊4日以上観光客は、高山で宿泊する割合と宿泊しない割合がほぼ同じ割合である。これは、観光客が高山以外にも足を伸ばしていることによるものと考えられる。

(5) 積極的に観光旅行をしたい年齢

年齢階層別に何歳まで積極的に観光旅行をしたいかを示したものが図-4である。年齢階層を大きく10代~20代、30代~40代・50代、60歳以上の3つのグループに分けることが出来る。この内、30~40代と50代が、70歳まで積極的に観光旅行したいと考えている割合が過半数を占めていることが分かる。

4. まとめ

高山市への公共交通機関で訪れた観光客を対象とした観光交通に関するアンケート調査の結果、次のようなことが分かった。

- ① 高山市内から遠くなるほど、JR利用の割合が高くなっている。
- ② 旅行全日程が1泊2日と2泊3日の観光客は、高山を中心に観光しているが、3泊4日以上観光客は、高山以外にも足を伸ばしている。
- ③ 交通機関選択の理由は、JR選択は『出発・到着時間が正確』、高速バス選択は『経済的である』というそれぞれの強みが明確に表れた結果になった。

以上のことから、公共交通機関を利用して来訪する観光客の意識実態を把握することができた。これを踏まえ、今後は公共交通機関の利用促進を高める具体的な方策を検討する必要がある。